

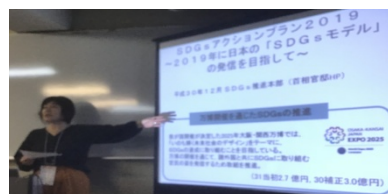
SDGs と夢洲万博

市民団体が6月26～27日に大阪市北区で開催した「G20 大阪市民サミット」の夢洲万博の分科会に参加した。「財政」について報告し、質疑でも積極的に発言した。分科会を企画・運営したNPO法人「AM ネット」の武田かおりさんによる標題についての報告を紹介したい。



SDGsとは「持続可能な開発目標」のことで、2015年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発のための2030アジェンダ。「誰ひとり取り残さない」世界の実現をめざすもので、相互に関連しあっている包括的な目標である「17ゴール・169ターゲット」を設定している。

政府のSDGsアクションプラン2019では「万博開催を通じたSDGsの推進」を掲げている。万博を所管する経済産業省の万博計画具体化検討会・検討ワーキンググループの「検討いただきたい主な論点」の最初に挙げられたテーマは、「SDGsの達成に向けて」。大阪府や大阪府がワーキンググループに提出した意見は、SDGs達成を加速させる万博の構築などであった。



万博会場を夢洲にすると、SDGs達成から遠のく。

① 市民参加型プロセス&パートナーシップの欠如
当初、夢洲は会場予定地の候補ではなかった。それが



2016年9月、大阪府市は会場候補地を夢洲に一本化。2017年8月策定の「夢洲まちづくり構想」をもとに、都市計画変更手続きを進めているが、この構想のパブリックコメントはほぼすべて反対であった。

② 目標11「住み続けられるまちづくりを」に反する。あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を求められるが、夢洲の災害リスク・防災・公害の検証が不十分である。

③ 「天然資源と生態系の持続可能な管理」と矛盾する。

夢洲は生物多様性のホットスポット、ゴミの最終処分地であり、それが失われる。

④ 「誰ひとり取り残さない」とSDGsは謳うが、カジノはそれと矛盾する。

⑤ 夢洲万博は、SDGsの5つのP（人間・豊かさ・地球・平和・パートナーシップ）および、多くの目標に反している。

結論として、「2025年万博は夢洲ではなく、SDGsに合致する会場に変更すべき」と提言する。27日の朝日新聞などでも紹介されたが、市民からの重要な問題提起である。

(2019年7月1日)